

慶應義塾大学 文学部

美学美術史学専攻

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

美学美術史学専攻では、卒業時に学部生が身につけるべき能力として下記のを定める。学則に定める卒業要件を満たした上で、卒業論文の内容・形式が学問的に適正と認められた者を、これらの能力を身につけた者と認め、学士（美学）の学位を与える。

1. 各研究会での研究・発表等の活動に積極的に参加し、適確な文章をもって、学問的な評価に耐えうる卒業論文を執筆できる。またそのために、研究テーマに応じて適切な情報の収集と分析を行い、科学的・論理的に思考し、批判的に考えることができる。
2. 美学、芸術学、美術史学、音楽学、アート・マネジメント等、美と芸術に関する各分野の学問に関して、本質的で幅広い知識と教養を身につける。
3. 芸術の諸分野についての基礎的教養を身につけ、あわせてイメージやパフォーマンス等の非言語的対象を把握し、それを適切に言語化する基本的リテラシーを身につける。
4. 美学や各芸術分野についての文献講読を通して、基本的な外国語・日本語（古典）の読解力を身につける。

以上の能力を身につけることにより、優れたコミュニケーション能力を有し、人間を尊重し、自らと他者を理解することによって多様な価値を認める深い人間性を養う。これにより、さまざまな分野でリーダーシップを発揮し、社会の各方面に貢献できる人材となる。

学修の最終成果である卒業論文（卒業試験）は次の審査項目を満たすものとする。

1. テーマ・問題意識が明確である。
2. 先行研究を踏まえている。
3. 方法が目的に適切である。
4. 内容が論理的で一貫している。
5. 形式が学術論文として適切である。